



119

小学校高学年向け

年組

産学官水槽の底石開発

大田原 市産花こう岩を熱処理

【大田原】産学官のネットワーク形成などを目的に活動する「市産学官連携推進委員会」の研究グループが3日までに、魚などを飼育する水槽用の底石「光亀石（きせき）」を共同開発し、商品化した。市内で採れる花こう岩に熱を加えることで水質浄化作用を高め、パッケージには「那須野」をモチーフにしたデザインを採用した。販売元となる亀久、東京石材の保永順平社長（43）は「さまざまな方の協力で完成した。多くの方に知っていただけるように販路拡大に努めたい」と話している。

（高山知昭）

共同研究グループは同社（リーダー）がメンバー。小のほか、小山高専（川越大）山高専側から「魚にやさしい底砂を作れないか」など、遊園（目野透展示チーム）と提案があり、昨年6月に



共同開発した商品のサンプルを手にする東京石材の保永社長（右から2人目）ら関係者



産学官連携で共同開発した「光亀石」

本格始動した。3者がそれぞれ実験してデータを分析する中で、水遊園側が「熱処理をしてみてはどうか」と発案。9月からは熱処理をして少し赤みがかった石で実験すると、底石として市販されている「珪砂」と同様の浄化作用が見られた。

試作品を使って11月に始めた市民ら約250人のモニター調査でも、約8割が「効果があった」と回答し

た。商品名は、産学官を含めたさまざまな出合いの結果、商品が生まれたことなどにちなんで名付けた。

類似品との差別化を図るうと、パッケージデザインは市地域おこし協力隊員でアニメーターの菅原ひかるさんに制作を依頼。那須野一や市マスコミセンター「与一くん」、弓矢をあしらい高級感のある包装とした。

光亀石の価格は1キロ入り1078円、3キロ入り3080円。市観光協会や堀之

（2022年7月4日付）
下野新聞16面

設問

【1】この記事の見出しをすべて書き抜きましょう。

【2】開発した底石はどこの市町産の、何という岩石を使っているでしょうか。

【3】この底石の開発はどこのどんな提案がきっかけ

だったのでしょうか。記事から調べましょう。

【4】「産（産業）・学（学問）・官（自治体）」の連携とありますが、参加した団体を三つ挙げましょう。

【5】なぜ産学官が連携するのでしょうか。考えを書きましょう。